



能登やさしいこめづくり情報

号外

**令和5年産種子は休眠が深い
適温浸種で休眠打破！！**

令和6年3月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A は く い

令和5年は夏季が異常高温となり、その影響で種子においても休眠が深い傾向が見られています（特にコシヒカリ）。良い苗を作るために、令和5年産種子の浸種・播種作業は、適正に行い、休眠打破で、しっかり種子を起こしましょう。

◎ 浸種適温は10～15℃

◆ 浸種初日の水温は10～15℃に保つ。

※ 種子の目覚め（休眠打破）には、浸種直後（8～24時間）の水温が重要です。

【表3 浸種初日の水温と発芽率の関係】

浸種初日の水温（24時間）	その後の水温	発芽率
低水温（10℃以下）	10℃～15℃	×
適温（10℃～15℃）	10℃以下	△
適温（10℃～15℃）	10℃～15℃	○

低水温で浸種を開始すると、その後の水温が適温（10℃）となっても発芽率が低下する場合があります。

◆ 発芽揃いを良くするため、低温（10℃以下）での浸種は行わない。

- ・ 高水温では、十分に吸水しないうちに発芽が始まり、発芽ムラの原因となります。
- ・ 直射日光や風の当たらない場所（屋内や風が当たらない屋外）で浸種作業を実施してください。

◆ 浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日に1回程度で水を交換する。

- ・ 酸素を供給し、発芽阻害物質を取り除くため、2日に1回程度水を交換しましょう。
- ※ 薬剤吹付種子は、最初の3日間は水を交換しないでください。

1. 浸種の積算温度は100～120℃（コシヒカリは120℃以上）

- ◆ 浸種の積算温度（水温×浸種日数）は「ゆめみづほ」「ひやくまん穀」「飼料用米」で100～120℃、「コシヒカリ」等で120℃以上。

【表4 浸種日数の目安】

水温	浸種日数
10℃	10日
15℃	7日

※ 積算温度が不足すると出芽が不揃いになる場合があります。

- ・ 浸種期間中は発芽の状態をよく観察してください。
- ・ 浸種終了の目安は、籾殻が透けて胚（根が生えてくる部分）が白く見えるようになった頃です。



図：浸種終了時のイメージ

2. 種子の保管方法

◆ 暖かい場所での保管で休眠打破。

- ・ 種子の保管中、倉庫内を加温することで休眠打破が促進されます。
- ・ 結露による湿気に注意しながら、できるだけ暖かい場所での保管に努めてください。